

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第12回会議議事概要

開催日及び場所	第12回会議 平成23年1月18日(火) 内閣府5階特別会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 交告 尚史 (東京大学大学院公共政策学連携研究部教授) 委員 小林 麻理 (早稲田大学大学院公共経営研究科教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士)
議事	○ 平成22年度 第2四半期の契約に係る審議 ○ その他

○平成22年度 第2四半期の契約にかかる審議	
審議対象期間	平成22年7月1日～平成22年9月30日
対象案件の説明	○ 対象期間における契約の全体(内閣官房25件・内閣法制局3件・内閣府137件)について事務局から説明 ○ 審議案件の抽出の考え方について当番委員から説明 抽出にあたっての関心事項 ・落札率が低い案件について予定価格が適正に積算されているか、また、事業が適正に履行されているかどうかを確認 ・不落随契について予定価格が適正に積算されているかを確認 さらに以下の観点から各案件を絞込み
審議抽出案件	2件
【競争入札】 最低価格落札方式	(官)1件 (関心事項) 予定価格が適正に積算されているか、事業が適正に履行されているのか。 契約件名：地点別被雲予測傾向算出ソフトウェアの開発 契約相手：アクシオヘリックス株式会社 契約金額：1,089,375円 契約日：平成22年8月31日 担当部局：内閣官房内閣衛星情報センター
【随意契約】 不落随契	(府)1件 (関心事項) 予定価格が適正に積算されているのか、不落に至った経緯。 契約件名：セルフネグレクト(自己放任)状況にある高齢者の幸福度に関する調査 契約相手：株式会社タイム・エージェント 契約金額：14,931,000円 契約日：平成22年9月28日 担当部局：経済社会総合研究所
委員からの意見・質問 それに対する回答等	別紙のとおり
委員会による意見の 具申又は勧告の内容	なし

意見・質問	回答
<b>1 地点別被雲予測傾向算出ソフトウェアの開発</b>	
○このようなソフトは、他の類似のものが市場に出回っているのではないかと。他の類似のものがあるならば、相当程度の価格を推測できるのではないかと。アメリカなど海外で類似のものがあり、それを輸入している業者がいて価格が下がるということはないのか。	○こちらのソフトはほかに例を見ないソフトなので、私どもで仕様書を作成し、1点のオーダーものとなっている。現在のところ海外でそういったソフトは見つけれない。
○落札したのは沖縄の那覇にある業者だが、オーダーメイドで出されてかなり高度な技術を要するものなので、むしろ、東京の中核にあるようなどこかの研究所等が落札すると思うが。	○本社契約なので沖縄県という形になっているが、東京にも営業所がある。
○技術的にあまり難しくないものなのか、難しいものなのかよくわからないが、品質面の確保という観点はどうしているのか。	○既存のデータを基にして実行試験等を行い、要件に対して十分な確認行為を行っている。
○他省庁で入札した時の落札価格も調べて、今回の予定価格を出したのか。	○他省庁の場合、何百万といったシステム規模は少なくても、何千万という規模なので、単純な比較は難しいが、かなりの額が下がって応札されている。
○企業によってエンジニアの単価には乖離があり、大企業であればあるほど単価が高く、中小であればあるほど低いという状況があるのはしょうがないが、予定価格も競争原理でいいというふうに割り切って考えるのか。	○予定価格を積算する際に、市販されている物価資料本の単価を採用している。
○予定価格を決める時に国は利益を勘案しないので、原価についての理解が民間と国では全然違う。民間は人件費部分に利益を載せてくるが、国は考えないというのか、まず人件費として考えるので、そこに乖離ができてしまう。原価というものが何なのかということのイコールフットリングをして、そこに幾らの利益を加算するのが妥当であるかという考え方のすり合せが必要だと思う。	○見積書には管理費という形で経費は含まれている。予定価格の積算でも、市販されている物価資料本の労務単価は管理費を含んだ設定になっているので、管理費、要するに利益を含んだ予定価格になっている。

2 セルフネグレクト（自己放任）状況にある高齢者の幸福度に関する調査	
○不落到った経緯は、今まで十分調査が実施されていないような領域なので作業が大変であり、予定価格とのギャップも大きすぎて、多くの業者が辞退されていたので、仕方なくこちらの業者と契約したということか。	○内容面の説明をしたところ、是非この問題を扱いたいということをお願いすることとなった。
○セルフネグレクトしている300人を調査するというのは、恐らく大変珍しい新しい。したがって、予定価格の設定が困難だったと思うが、苦勞されたところとか、今回の最終決定を見て、何か経験されたことがあれば教えて欲しい。	○セルフネグレクトの人本人にどのようにアプローチしていくのか、それに対してどれだけ労力がかかるのか、どういうふうにするのか地域に分布しているのかわからなかったことが、入札する側にとっても一番難しかったのだと思っている。我々としてもなかなか地域配分を示せない、そこをどのように仕様書に落とし込んでいくのか、そこが一番難しかった。
○300人の方に対する調査は聞き取りが原則になるのか。アンケート用紙を配って書けというわけにはいかないのか。聞き取りに行くのはタイムエージェントが行くのか。それとも地方自治体の職員なのか。	○アンケート用紙記載だけでは、はあまり意味がないので、本人からの聞き取りになる。タイム・エージェントの調査員と地方自治体の職員等と一緒にいく形。
○かなりトラブルがあって当然のような事業で大変だと思う。本当は緊急事態が発生したときの対処法に関するような費用もあっていいのかなと思うが、そういうのはないようだ。1, 400万円で真っ当な調査ができるのか。	○事前に類似の高齢者の方たちの調査をしている関係者に話を伺った。その調査では調査会社の調査員が調査をしているが、この調査においては、完全に調査会社のみでは無理ではないかと考え制度設計をした。一方で、時間がかかるということをもうちょっと見ておいたほうがよかったと思う。
○最大の行政目的を達するために適切なものを出すことが大事であるという観点からして、効果の検証とか、期待したものがこれではちょっとしんどかったとか、頑張ればできたんだとか、その評価がまた難しいと思うが、そちらの方もフォローしていただきたい。	
○総合評価方式を最初から採用しなかった理由は何か。	○基本はアンケートなり面接調査であり、ほとんどが労務の部分で、出てきた結果を集計するということだけで考えた。
○調査自体の大切さもあるので、アウトカムというか効果について、その次の次ぐらいの委員会でもう一度どうだったのか聞きたい。データの収集として十分に分析に役立つ広さと深さの情報が集まっているのかどうか、300人と面接することの価格との対応がとして十分だったかどうかについて。	
○定性的な評価になると思うが、企画立案してやっておられる皆さんとして、意図したものに近いものが出てきたのかどうかというところは率直な評価をお聞かせいただきたいということと、業者側でも十分にできましたと言うのか、あるいは十分にやったけれど力不足だったのか、あるいは、もうちょっときちんと十分にやれるようなコストがあればできたかなと思っているかとか、本当はできないんだけど頑張ってやりましたと言うのか、そこらあたりの業者側の率直な感想も聞いていただければと思う。	
○業者側の申告ベースでいいので実施に要した経費を出していただいて、予定価格積算のときとのかい離を見ていただければと思う。	

○その他

- ・燃料電池車の入札について
- ・平成23年度政府広報の契約方式について
- ・入札時の独法人件費の取り扱いについて
- ・一般競争入札案件(役務契約)の品質確保対応策について
- ・競り下げ入札の試行について  
について事務局から説明